

平成20年9月2日
消 防 庁

「救急の日」及び「救急医療週間」の実施

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急業務及び救急医療に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急業務のより一層の高度化等を図るため例年実施されています。本年も全国の消防機関及び医療機関によって一斉に実施されます。

【資料】

「救急の日」及び「救急医療週間」の実施について

- ・ 救急の日 9月9日(火)
- ・ 救急医療週間 9月7日(日)～9月13日(土)
- ・ 「救急功労者表彰式」 9月9日(火)
- ・ 「救急の日2008」 9月9日(火)、10日(水)



(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：溝口専門官 島田係長 鈴木事務官

電話：03-5253-7529(直通)

FAX：03-5253-7539

「救急の日」及び「救急医療週間」の実施について

1 行事の趣旨

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急業務のより一層の高度化等を図るため、昭和57年度から実施されているもので、本年度も期間中全国の消防機関及び医療機関で、その趣旨に合わせた行事が開催されます。

2 平成20年度の期間等

「救急の日」：9月9日（火）

「救急医療週間」：9月7日（日）～9月13日（土）

3 消防庁等における実施行事等

（1）「救急の日2008」の開催

① 日時 平成20年9月 9日(火) 10:30～19:00

9月10日(水) 10:00～17:00

② 場所 池袋サンシャインシティールパ B1「噴水広場」

③ 行事内容

i 開会式 9日（火） 10:30～10:40

ii 救急蘇生法の普及、救急救命処置の実演等

iii 救急車の適正な利用の普及啓発他

④ 主催

総務省消防庁、厚生労働省、（財）日本救急医療財団、日本救急医学会

（2）救急功労者表彰式

平素から救急業務の推進に功労し、公共の福祉の増進に顕著な功績があった個人及び団体を表彰するもので、今年度より新たに総務大臣表彰を設け、受賞者は総務大臣表彰では医療関係者13名及び医療関係機関1団体、消防庁長官表彰では救急救命士6名となっています。

① 日時 9月9日(火) 13:30～14:10

② 場所 KKRホテル東京11階「丹頂の間」

③ 受賞者 別紙1のとおり

④ 受賞者の紹介 別紙2のとおり

(3) 「救急の日」ポスター

今年度のポスターのテーマは、「応急手当で AEDで 次につなげるその命」で、救命のリレーで、救急車が到着するまでの間に行う応急手当の必要性を伝えるとともに、救命講習の受講を呼びかける内容となっています。また、救急車を必要とする方への対応が遅れることがないように、救急車の適正な利用をお願いする内容になっています。



(4) ホームページへの掲載

消防庁のホームページ

(<http://www.fdma.go.jp>) に「救急の日」及び「救急医療週間」の消防庁における行事概要及び応急手当要領・自動体外式除細動器（AED）を含んだ応急手当普及啓発コマーシャル等を掲載しています。



4 消防機関における実施行事等

全国の消防機関においても期間中様々なイベントが開催されます。

平成20年度救急功労者表彰受賞者名簿

別紙1

総務大臣表彰（個人）

（50音順）

ある が とおる 有賀 徹	58歳	昭和大学病院 副院長	（東京都推薦）
くろかわ あきら 黒川 顯	62歳	日本医科大学武蔵小杉病院 院長	（神奈川県推薦）
さかた いくひろ 坂田 育弘	61歳	近畿大学医学部附属病院救命救急センター 救急医学部門教授・救命救急センター長	（大阪府推薦）
さかもと てつや 坂本 哲也	65歳	秋田県厚生農業協同組合連合会 秋田組合総合病院 名誉院長	（秋田県推薦）
しのざわ よう たろう 篠澤 洋太郎	61歳	東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野 教授	（宮城県推薦）
すずかわ まさゆき 鈴川 正之	56歳	自治医科大学附属病院 救急医学教授・救命救急センター長	（栃木県推薦）
つつみ はるひこ 堤 晴彦	56歳	埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター 高度救命救急センター長	（埼玉県推薦）
ととき ただ ひで 十時 忠秀	66歳	佐賀大学名誉教授 佐賀県医療統括官	（佐賀県推薦）
ふじわら ひでおみ 藤原 秀臣	65歳	総合病院土浦協同病院 病院長	（茨城県推薦）
まるこ み なえ 丸古 臣苗	68歳	社団法人川内市医師会立市民病院 院長	（鹿児島県推薦）
みやざき ひさよし 宮崎 久義	66歳	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター 名誉院長	（熊本県推薦）
よしかわ おさみ 吉川 修身	63歳	函館市病院局 函館病院長	（北海道推薦）
よしだ しげゆき 吉田 茂幸	70歳	医療法人社団 吉田内科医院 院長	（長崎県推薦）

総務大臣表彰（団体）

特定非営利活動法人 愛知万博記念災害・救急医療研究会（愛知県推薦）

消防庁長官表彰（個人）

かとう よしのり 加藤 義則	60歳	国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 講師	（消防庁推薦）
こがち すずむ 古我知 進	59歳	那覇市消防本部 救急課長 消防司令長	（沖縄県推薦）
せい の ひろ ひで 清野 浩英	53歳	山形市消防本部 救急活動総括主幹兼本署補佐 消防司令長	（山形県推薦）
たきもと さだお 瀧本 貞雄	60歳	和歌山市消防局 消防総務課長 消防監	（和歌山県推薦）
ないとう とおる 内藤 亨	53歳	甲府地区広域行政事務組合消防本部 救急救助係長 消防司令	（山梨県推薦）
ふるい ひでゆき 古井 秀之	52歳	北九州市消防局 八幡東消防署警防課枝光担当係長 消防司令	（福岡県推薦）

受賞者の紹介

救急功労者表彰は毎年、救急救命士や救急隊員への教育指導に積極的に取り組んでこられた方や、地域メディカルコントロール協議会等の救急医療体制の構築に尽力された方など救急業務の高度化に貢献のあった方々が受賞されていますが、特に、今回の表彰で特徴のある功績により受賞された方々を紹介します。

1 離島対馬の救急医療に尽力（総務大臣表彰）

長崎県の吉田茂幸様は、対馬島内の病院長として毎年、消防、地域住民、医師等が一堂に会する意見交換、研究発表会を開催するとともに、島内の遠隔地集落に対し、夜間救急隊と共に出向き、心肺蘇生法の実技指導を実施された功績です。

2 消防学校にて救急隊員を永年にわたり養成（総務大臣表彰）

佐賀大学名誉教授の十時忠秀様は、昭和55年から現在に至るまで、佐賀県消防学校等にて救急隊員の養成と資質の向上に努め、救急救命士制度創設後は救急救命士の病院実習を積極的に受け入れ、救急救命士の気管挿管実習を佐賀県内で初めて実施するなど救急業務の推進に貢献された功績です。

3 心電図伝送装置の基礎を築く（総務大臣表彰）

総合病院土浦協同病院院長の藤原秀臣様は、心電図無線伝送システムの実用化に向け、県内消防本部との間で1年8ヶ月にわたり調査研究し、全国で初めて同システムの運用を実現化させるとともに、救急救命士の病院実習を積極的に受け入れ救急救命士制度の充実に貢献された功績です。

4 AED（自動体外式除細動器）の全国的普及に影響を与える（総務大臣表彰）

愛知県の特設営利法人愛知万博記念災害・救急医療研究会様は、マスギャザリングの救急実施体制を構築し確立させるとともに、愛知万博では心肺停止症例4例中3例の救命に成功するなど、全国のAEDの普及に影響を与えた功績です。

5 救急隊員とバイスタンダーの育成に尽力（消防庁長官表彰）

救急救命士である加藤義則様は、(財)東京救急協会事務局長を務め、応急手当の普及啓発の推進に尽力しバイスタンダーの育成・指導をされるとともに、救急隊員の指導育成に尽力された功績です。